

オレは〇〇山の赤鬼だ。今日は節分だ。オレにとってはずっとつらい日だ。なぜかって？ オレはみんなの投げた豆で一晩中いたい思いをするからだ。オレが何をしたらいいんだ？

オレはこの間人間に化けて、人間の心づうを食ってやろうと〇〇の町を歩いてた。△△(学区内の店など)に入ろうとしたら向こうからうまそうな小学生がやってきたので「おはよう」と言ったんだ。

そうしたら「何、この人？」という顔でオレを見やがった。何も言わない。いわゆる「しかと」された。無視だな。このころは小学生ママ根性が曲がり心づうがくさっているのか？ ああ、世も末だ。

△△(学区内の店など)を出て△△人行く途中、△△のところまで来た。またうまそうな小学生が来た。オレは「おはよう」と言ったんだ。そうしたら「おはよう」と返事を返してくれた。うれしかった。そしてすれ違い、振り向くとその子がつぶやくのが聞こえたんだ。「へんなおじさん」くそー、くさった心づうめ。食ったら下痢しそうだ。

がっかりしたオレはそこから辺りをさまよい歩いた〇〇の歩道橋を渡って曲がろうとしたら今度は、正真正銘、うまそうな子が来た。持っていたバッグの名前を見ると〇〇小と書いてある。オレは3度目の正直「おはよう」と言った。

その子は「おはようございます。寒いですね」と笑顔で言ったんだ。オレの方を向いて心から言ったのだ。オレは、感極まって涙を流した。オレはその子の心づうを食おうとしたが、あまりに心がきれいだったのをやめたのだ。

そのとき思った。オレは鬼だが人間の心の中にはもっと怖い鬼がいる。その怖い鬼を退治しない限りこの世はだめになるってな。21世紀はおまえたちの世紀だからな。

節分で退治するのは、自分の中の鬼だぞ。いいか、今からでも遅くない。これは警告だ。あいさつもろくにできないまうなやつは、今度こそオレが食ってやる。今度「へんなおじさん」が「おはよう」と言ったらそれはオレだ。気を付けな。

〇〇山の赤鬼より